

道路17 国道32号の二次改築(香川県)

No.	資料名	ストック効果に関する記述
香川189	国土交通省四国地方整備局編「一般国道32号綾南・綾歌・満濃バイパス(事後評価)」(平成29年度第2回事業評価監視委員会資料、2017年)、4-10頁	<p>国道32号綾南・綾歌・満濃バイパスの事業効果</p> <p>(1)交通の転換による渋滞解消と交流支援            昭和55年と平成27年を比較すると、旧国道32号の交通量は整備前と比べて約6割減少し、交通の転換により慢性的に発生していた渋滞が大幅に解消している。当該バイパスの整備により、旧国道32号と合わせた断面交通量は最大2.5倍に増加しており、都市間の交流を支援している。</p> <p>(2)都市間、空港・港湾等へのアクセス向上            昭和55年と平成27年を比較すると、バイパス整備により、都市間(まんのう町役場～高松市役所)及び港湾(まんのう町役場～高松港)への所要時間は約2割短縮(▲13分)、駅～空港間(JR琴平駅～高松空港)への所要時間は約1割短縮(▲4分)し、定時性が確保され、アクセス性が向上している。</p> <p>(3)主要観光地へのアクセス性向上に寄与            バイパス周辺には、香川県全体の観光客の約6割を占める主要観光地が立地しており、主要観光地へのバイパス利用率が高く(最大で74%)、昭和55年と平成27年を比較すると、整備前に比べ高松駅からの所要時間が2割(▲12～▲15分)短縮し、主要観光地へのアクセス性向上に寄与している。</p> <p>(4)うどんバス・タクシーなどに利活用            バス・タクシー会社では、近年主に観光客をターゲットにバイパスを利用して「うどん店」を巡る観光コースを設定しており、うどんバスの利用客数は、約2.1倍(H24→H29)に増加している。観光客のうどん飲食率(香川県全体)は、約1.2倍(H22→H28)に増加している中、当該バイパス整備によるアクセス性の向上等により地元企業等が当該バイパスを利活用している。</p> <p>(5)産業活性化を支援            昭和55年と平成27年を比較すると、バイパス整備により、協栄集荷場から高松中央卸売市場・空港への輸送時間が約1～2割(▲4～▲14分)短縮し、ブロッコリー出荷の輸送効率が向上したことにより、農業の活性化を支援している。</p> <p>(6)沿線住民の安全向上に寄与            全線整備前(H12-H14)と全線整備後(H25-H27)を比較すると、バイパス整備後、旧国道の人対車両事故件数は約3割減少し、バイパスにおいても約2割減少しており、沿線住民の安全向上に寄与している。</p> <p>(7)災害時の物資輸送・救命救助等を支援            一般国道32号綾南・綾歌・満濃バイパスは、第1次輸送確保路線だけでなく、四国おうぎ(扇)作戦における本州側からの支援部隊を受け入れる出発拠点(まんのう公園)へのアクセスルート、出発拠点から被災地の集結拠点への進出ルートに位置づけられている。役場等の拠点と防災機能強化港・災害拠点病院を結ぶ地域の災害復旧活動の支援はもちろんの事、四国全体の広域的な災害復旧活動を支援する機能を有している。</p>